

日本の知恵、
プラスチックの知恵

紙帳

季節を越えた、再利用の知恵

ちりの身とともにふはふは紙帳しちようかな 一茶

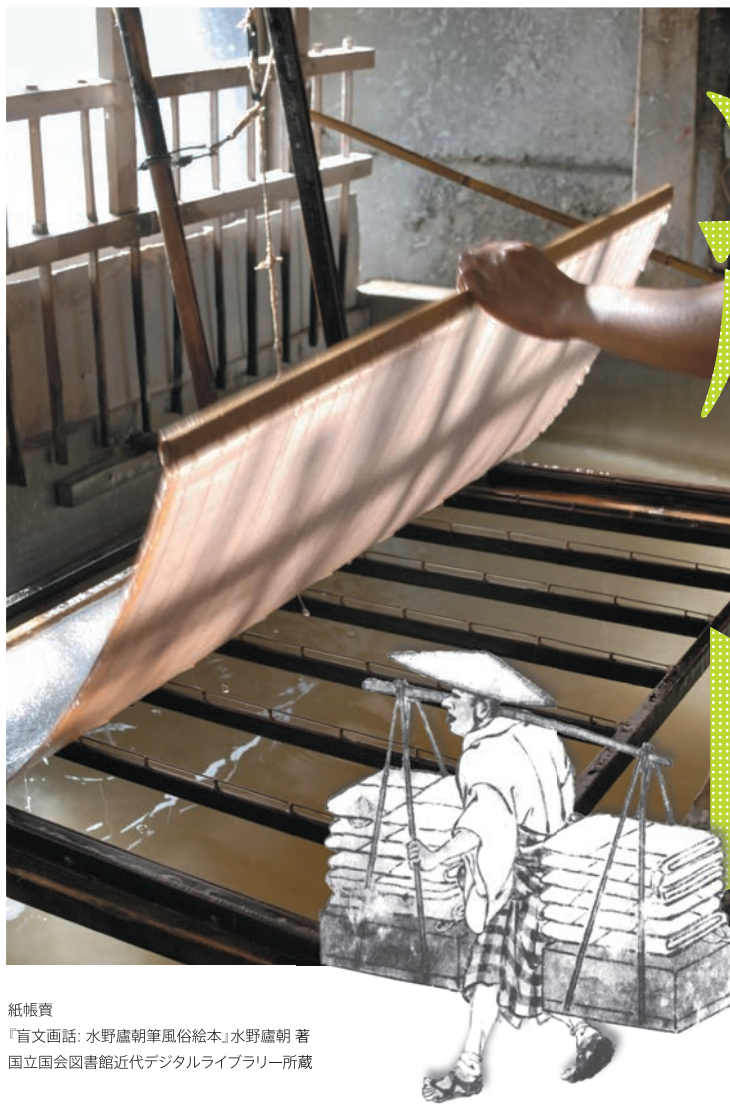
冷房もなかった江戸時代、夏は暑さをしのぐために家を明け放ち、蚊帳かやを吊って夜風を入れて眠ることが普通でした。それは必需品でしたが、麻や木綿の蚊帳を吊れるのは裕福な家庭。庶民は紙でつくられた紙帳でしたが、扇子や団扇の形に開けた小窓に紗などが貼られているのが、風情を醸し出しました。

そして、秋には紙帳を売り払い、冬には藁を詰めて紙布団にしたものを買い戻し、寒さに備えたのでした。芝の天徳寺前で売られていたことから「天徳寺」と呼ばれた紙布団は、まさに季節を越えてリデュースされた「知恵の消費」でした。

こうしてゴミを少なく、バランスのいい消費を工夫する精神は、住友ベークライトの食品用透明フィルム「ECOCeeL[®]（エコシール）」にも活かれています。強く薄く、20%も軽量になった多層構造の機能フィルムで、食品ゴミ全体を減らす、環境にやさしい食品包装材料です。



深絞り包装用フィルム
エコシール
ECOCeeL[®]



紙帳賣

『盲文画話: 水野廬朝筆風俗絵本』水野廬朝 著
国立国会図書館近代デジタルライブラリー所蔵

プラスチックのパイオニア

 住友ベークライト株式会社

フィルム・シート営業本部

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目5番8号 天王洲パークサイドビル
TEL:03-5462-4142 FAX:03-5462-4897 <http://www.sumibe.co.jp>